

つながる力

《No.18》



9月13日、辺野古土砂全協第七回総会開催

コロナウイルスの市中感染が収まらず、「延期」を余儀なくされていましたが、9月13日、予定イベントを中止し、第七回総会を高松市をメインに、全国からのオンライン参加で開催しました。

高松市の会場には11名、オンラインで31名が17都府県から、合計42名が参加されました。



慣れないオンライン開催に、多くの参加を頂き、参加の皆様へ感謝申し上げます。そして、紆余曲折しながら開催を準備して頂いた香川県連絡会の皆様、オンラインの

ホストを引き受けて頂いた飯島さんに感謝申し上げます。

皆様のご協力が無事、第七回総会を開催することが出来ました。北上田さん・湯浅さん・末田さんのミニ学習会を交え、活発な議論が展開され、予定の議案はすべて原案通り承認されました。紙面の都合、2020年度の方針と予算、役員の確認を掲載させていただきます。(2~4頁をご覧ください)

《 目 次 》

辺野古土砂全協第七回総会報告	松本宣崇	2~3
辺野古土砂全協2020年度予算		4
「個の尊厳」と「つながる力」を再認識させられ、勇気づけられる場所	渡瀬夏彦	5
海砂採取の総量規制、ジュゴン生息地での海砂採取、全面禁止を求めて	北上田毅	6
沖縄県土砂条例の改正・強化を求め、陳情	末田一秀	7
沖縄糸満地区の岩ズリ採取に関する問題	島添健造	8~9
辺野古埋立て設計変更申請に意見書提出	大谷正穂	10
辺野古・大浦湾の海を守るための意見書を一緒に書く会	牧瀬 茜	11
これが辺野古新基地建設変更申請 埋立土砂調達計画の概要だ!?		12~13
「西条の母の歌碑」修復記念祭に参加して	土居立子	14
《沖縄からの便り その12》 あまた命(ぬち)抱ちよる...	浦島悦子	15
インフォメーション		16

写真提供 阿部悦子 太田あゆみ 渡瀬夏彦 島添健造 土居立子 多田裕美子 松本宣崇

辺野古土砂全協第7回総会報告

辺野古土砂全協事務局長 松本宣崇

9月13日高松市を主会場に、全国からのオンライン参加で開催した辺野古土砂全協第七回総会は、以下の2020年度方針、2020年予算そして役員の確認についてを原案通り承認しました。



* 2020年度活動方針

2020年4月21日、新型コロナウイルス感染拡大の真ただ中で、防衛省は辺野古新基地建設に関する大浦湾軟弱地盤改良工事を核とした設計概要変更申請を敢えて行った。これは、生物多様性の低減が感染症の危機を広げており、コロナ禍は人間活動の結果であるという現実を無視した暴挙である。コロナ禍は、生物多様性を急激に低減させ続ける人類に対する自然からの重大な警告である。辺野古新基地建設に伴う埋め立て、岩ズリ・海砂の採取、沖縄島外からの大量の埋め立て用土砂の搬入は、従来から生物多様性国家戦略に反する行為として止めるべき事業であった。政府は、これを無視して事業を継続してきたが、2020年のコロナ禍の発生は、生物多様性を保持すること、そのために生物多様性国家戦略を守ることの意義をこれまで以上に一気に高めている。辺野古新基地建設は、愛知目標や近く策定されるであろう「ポスト愛知目標」に照らして吟味され、計画自体が見直されねばならない。コロナ禍の中、この点が問われている最中に、大浦湾地盤改良工事の設計変更申請の提出自体が、断じて許されない。

辺野古新基地建設用埋立て土砂を各地から搬出させないと取り組んできた土砂全協は、沖縄防衛局が設計概要変更で埋め立て土砂の主たる調達先を沖縄県内とする考えを示したことで新たな戦略の構築に迫られている。今後想定される沖縄県外からの搬入事態に備え、新たに候補地に挙げられた各地との連携を深めるとともに、現地の闘いをさらに支える取り組みを盛った方針を提案し、承認された。

1 新たな土砂搬出地と

「土砂搬出反対」のつながりを築こう

防衛省は8月21日の交渉で「現時点においては沖縄県内の資材を使用することで必要量を賄える」と言う一方、変更申請では鹿児島、熊本、長崎、佐賀県からも土砂を持ち込む計画。土砂全協の力で、まず連絡のつくところからつながりを築こう。情報交換を進め信頼関係を深め、各県で県外への外来生物搬出を止める条例制定などを展望しよう。リストアップされた各採石場の基礎データを各県への情報公開請求などから集めよう。

土砂全協の活動の紹介、特定を含む外来生物リストを盛ったリーフレットをつくり、関係県などで配布しよう。

2 沖縄県土砂条例改正の陳情活動の継続

沖縄県外からの土砂搬入を妨げているのは沖縄県土砂条例であることは明らか。幾度の交渉で防衛省は特定外来生物の混入を完全に避ける方法を明示できなかった。

しかし同条例には「命令規定」などがなく条例強化を求める陳情を行ってきた。また18年に策定された「沖縄県対策外来種リスト」に掲げられた特定以外の外来生物を規制対象として新たな「条例」を作り、命令規定を設け罰則規定も加えることを提起してきた。これらの陳情は審議未了のまま廃案と

なったが、土砂条例をさらに強化させる取組みを続けよう。

3 大浦湾地盤改良工事のための

大量の海砂採取・調達を止めさせる活動

設計変更申請の中心的課題である大浦湾のマヨネーズ状の軟弱地盤改良のために、敷砂や砂杭用として当初予定していなかった約 400 万 m³もの海砂が必要。大部分は沖縄島周辺、一部は山口県沖から調達の可能性を残す。これを止める活動を推進する。

海砂採取による自然破壊は、1970 年代から 90 年代まで主に採取されてきた瀬戸内海の経験がある。採取に伴う海底地形変化や海岸線の破壊など目に見える影響だけでなく、砂地に生息する底生生物の

「生きる場」を破壊することで、沿岸域の生態系のバランスを崩してきた。特に低次生態系の要にあるイカナゴが産卵・夏眠の場を奪われることで大幅に減少した。同時に採取船上から濁水を直接放流することで、周囲のアマモ場が減少した。沖縄島でも、名護市嘉陽など北部沿岸域を中心に長年にわたる採取で、ジュゴンの餌となる海草減少などが発生している可能性が高い。地域住民からの聞き取りやアンケートで実態を明らかにしていく。また山口県からの海砂調達は外来生物の持込みの可能性があり、岩ズリと同じ問題として対応する準備を進める。

4 政府（防衛省・環境省）交渉と

「STOP! HENOKO」請願署名第2次提出

「変更承認申請」に対する玉城知事の判断は、来年の初めとされる。告示・縦覧に対する意見書提出運動を引き継ぎ、土砂および海砂の採取の問題点を明らかにするために、政府交渉と院内集会の開催を目指す。それは知事の「不承認」を支えることにもなる。「総がかり実行委員会」はじめ、ともに活動を進めてきた首都圏の団体とも連携し、広く呼びかける。

2019 年 6 月に 6 1 万 1 3 9 筆を提出した。その後寄せられた 1 万筆超の署名は第 2 次提出として、この政府交渉・院内集会の中で実現したい。

5 現地に駆け付けよう

全国的にもコロナ感染の影響で活動しにくい状況が続いているが、行ける状態の人は現地に駆け付け

よう。特に安和栈橋や塩川港の抗議行動では参加者も限られ苦しい闘いが連日続いている。この先塩川港にベルトコンベヤーが設置されると運搬船に積み込まれる土砂は加速する。土砂全協の仲間たちも頑張っている安和栈橋、塩川港の取り組みを各地で伝え、ゲート前だけでなく安和栈橋や塩川港の闘いに参加するよう促がそう。

6 組織・財政の強化を

以上のような活動を支えるため組織、財政の強化にも努める。

7 規約の改定について

今期一年をかけて、辺野古土砂全協規約の改定・見直しをおこなうこととする。

* 役員の確認について

辺野古土砂全協の活動は広く参加団体の合議のもとに運営されています。その原点を共有し再確認するために、総会に以下の役員名簿を提案し、承認されました。

- ◆ 共同代表 阿部悦子 大谷正穂
- ◆ 顧問 湯浅一郎 北上田 毅
末田一秀 大津幸夫
- ◆ 事務局長 松本宣崇 ~財政兼任
- ◆ 事務局次長 八記久美子
- ◆ 会計監査 五宝光基 土居立子
- ◆ 役員 浦島悦子 阿波根美奈子

城村典文 森 紘道 碓山勇生
大坪満寿子 歌野 敬 新田秀樹
溝渕裕子 富田恒子 柴田天津雄
毛利孝雄 安部真理子 當島勝文

「辺野古埋め立て土砂搬出反対」熊本県連絡協議会、播磨灘を守る会は両会からの役員がお亡くなりになったため、現時点では未定です。当会役員に関し各団体の協議に委ねることとしました。

辺野古土砂全協では、「沖縄県知事は変更計画を不承認に」とする、沖縄県知事あて意見書提出を呼びかけました。3週間という限られた時間の中、各地から大変多くのご協力がありました。この場を借り、ご協力頂いた皆様には、心より感謝を申し上げます。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会
第5期(2019.4.1～2020.3.31)決算
並びに次期、第6期(2020.4.1～2021.3.31)予算案

	勘定科目	補助科目	第5期		第6期予算
			予算	決算	
収 入	前期繰越		1,408,831	1,408,831	545,143
	会費		1,040,000	868,500	700,000
		団体年会費	140,000	70,000	100,000
		個人年会費	500,000	480,000	600,000
		総会参加費等	400,000	318,500	0
	事業収入		350,000	227,430	80,000
		辺野古冊子販売	200,000	129,300	60,000
		集会シンボ等	150,000	96,670	20,000
		物品販売～琉球新報	0	1,460	0
	寄付・カンパ		1,500,000	852,336	900,000
	雑収入		10	14	10
		雑収入	0	0	0
		受取利息	10	14	10
	辺野古基金助成		0	302,500	0
合 計			4,298,841	3,659,611	2,225,153
支 出	外注費～HP開設費		0	60,500	0
	機関紙費		1,100,000	965,419	985,000
		封筒・振替用紙	50,000	62,240	65,000
		印刷費	600,000	585,175	600,000
		発送費	450,000	318,004	320,000
	会議費		320,000	573,417	100,000
		総会費	250,000	459,208	0
		役員会	20,000	9,310	50,000
		集会開催費	50,000	104,899	50,000
	旅費交通費		1,000,000	579,364	500,000
	通信費		50,000	12,445	15,000
	事務消耗品費		30,000	8,385	10,000
	資料費		0	0	0
	印刷費		0	0	0
	支払手数料		3,000	2,317	3,000
	雑費		10,000	10,121	10,000
	広告宣伝費		0	0	0
	物品仕入		0	0	0
	事務費		600,000	600,000	600,000
	ホームページ開設費用		734,400	0	0
辺野古基金助成金支出・情報発信支援		0	302,500	0	
辺野古基金助成金支出-2		0	0	0	
合 計			3,847,400	3,114,468	2,223,000
当期残高(次期繰越金)			451,441	545,143	2,153

監 査 報 告

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第5期(2019年度)会計を厳正に監査したところ、帳票書類等正確かつ適正に処理されていることを認めます。

監 査 五 宝 光 基

監 査





「個の尊厳」と「つながる力」を 再認識させられ、勇気づけられる場所

ノンフィクションライター 名護市在住 渡瀬夏彦



辺野古新基地建設阻止を心から願うわたしたちにとって、本部塩川港(=本部港塩川地区)と琉球セメント安和棧橋の、忌まわしき二つの土砂搬出現場は、おそろかにすることのできない場所である。

本部塩川港は、近隣の鉾山からダンプカーによって運び出された「埋め立て土砂」が主にランプウェイ台船(ダンプカーが直接乗り込むことのできる船)に積み込まれる場所。

一民間企業の琉球セメント安和棧橋には、本業とは無縁の「辺野古埋め立て土砂」専用の巨大なベルトコンベアが設置されており、この棧橋に大きなガット船(クレーン付きの土砂運搬船)が接岸し、土砂が流し込まれる。

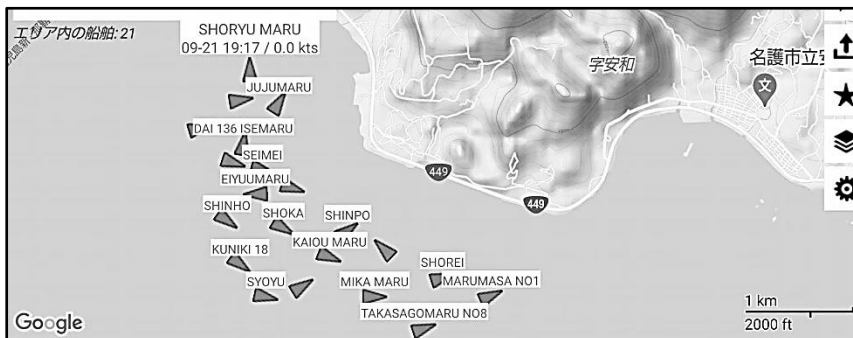
本部塩川港と安和棧橋、どちらの場所からも毎日ダンプカー数百台分の土砂が船に積まれ、辺野古へ運ばれていく。この罪深い作業の進捗を少しでも遅らせるために、非常に大きな力を発揮するのは、じつはダンプカーを目前にしてのいわゆる「牛歩」である。コロナ禍で、市民の結集を大々的に呼びかけることが困難な昨今、その中心メンバーは、本部塩川港では、地元本部町島ぐるみ会議の有志。琉球セメント安和棧橋では、本部町島ぐるみ会議と「あつまれ辺野古」グループ有志。少ない日は、それぞれの場所で2~3人だけのときもある。その少人数で、誰かが毎日、雨の日も風の日も日差しの強い日も、この両所で頑張っている。ある熟年男性は、来

る日も来る日も、工事中止を訴える幟旗を持って無言で本部港構内のダンプカーの前をゆっくりゆっくり歩く。安和棧橋ダンプカー出入口に通う中年女性は、運転手と目と目を合わせ、深々とお辞儀をし

「あなたが生活のためだと言うのはわかるけど、あたしだって必死の思いでここに来ているんだよ。せめてゆっくり運転してちょうだいね」と語りかける。運転手の顔には苦笑とも微笑ともとれる穏やかな色が浮かぶ。

両所には、毎日ダンプカーの数をカウントし、船の動きや作業全体の動きを監視する人もいる。本部塩川港に通うTさん、琉球セメント安和棧橋に常駐のAさんとは、わたしもよく立ち話をさせていただくが、その地道な持続的な監視行動には本当に頭が下がる。この営みがなければ、罪深い工事のスタートから現在まで、いったいどれだけの土砂が辺野古の浅瀬に投入されたのかも把握できていないし、日々の対策、行動の指針も立てにくい。

TさんもAさんも「本部町島ぐるみ会議」の所属だが、この市民グループの凄いところは、組織的な動員とは程遠い「個の尊厳」の発露が感じられる点。島を愛する住民の自発的な意思によって日々の行動は成り立っていて、まさに皆が「個」の輝きを保ちつつ、「つながる力」を発揮している。私たちは「微力であっても無力ではない」のだと再認識させられ、勇気づけられる場所。それが、本部町塩川と名護市安和なのである。



渡瀬さんは、本部塩川港・名護市安和棧橋から辺野古に積み出される土砂運搬船(ガット船)を追跡、FBにその画像の投稿を続けています。

2020.9.21投稿
渡瀬夏彦さんFBより
世の連休に合わせて、間違いだらけの辺野古新基地建設ゴリ押し工事に携わる罪深き土砂運搬船(ガット船)団21隻も、本部半島の塩川港沖にズラリ並んで休息中だ。
台風12号ドルフィンよ、この罪深き船団が動けなくなるぐらいには沖縄に近づいてくれないか。



海砂採取の総量規制、 ジュゴン生息地での海砂採取全面禁止を求めて

沖縄平和市民連絡会代表世話人・辺野古土砂全協顧問 北上田毅

今回の辺野古新基地建設事業の変更申請では、地盤改良工の敷砂・砂杭、ケーソン護岸の中詰材等のために約390万m³の海砂が必要とされている。ほとんどは沖縄県内で調達されるが（一部、山口県からも採取される可能性も）、これは沖縄県の年間海砂採取量の2～3年分にもなり、このままでは沖縄沿岸海域の環境は致命的に破壊される。

沖縄平和市民連絡会は沖縄県に対し、①海砂採取の総量規制を制定すること、②海砂採取の監視強化、③ジュゴンの生息域での海砂採取を禁止すること等を求めて陳情や交渉を続けてきた。本年7月の県議会定例会にも署名を提出したが、委員会開催前には、県議会与党県議団に対して海砂採取の問題点について説明する学習会をもった。

こうした取組によって、沖縄県も西日本の各県に海砂採取の現状についての調査や、海砂採取業者や関係自治体、漁協等への事情聴取を行ってきた。そして、本年7月には、それまで全くチェックできていなかった採取位置の確認や採取量の裏付けとなる資料を提出させるなどの監視強化策を開始した。一定の前進は評価するが、肝心の総量規制については、「学識経験者の意見も聞きながら慎重に検討する」というにとどまっている。

沖縄県の調査では、すでに兵庫、岡山、広島、徳島、香川、愛媛、熊本、大分各県等では海砂採取は全面禁止となっている。島根、山口、高知、福岡、佐賀各県では採取禁止海域を決めている。また鹿児島、長崎、山口、高知、福岡、佐賀各県も総量規制を定めている（宮崎県は総量規制を定めていないが、採取実績はない）。

こうして見ると、沖縄県の対応の遅れは著しい。沖縄県は「沖縄では海砂は建設用骨材などと

して必要不可欠」と強調するが、沖縄県内の海砂採取量はここ数年、那覇空港第2滑走路埋立事業分を除くと、年間70～100万m³程度にとどまっている。

また、特に問題となるのは、海草藻場が繁茂し、ジュゴンが生息している嘉陽沖等、国頭の東海岸などでの海砂採取を許可していることだ。沖縄県は防衛局に対し、辺野古埋立のための土砂運搬船は海岸から10km以上離れて航行すること、ジュゴンの見張りを励行することなどを指導している。しかしその一方で、県がジュゴン生息地での海砂採取を許可することは絶対に納得できない。これからも海砂採取の総量規制、ジュゴン生息地での海砂採取禁止を早急を実現させるよう取組を強化していきたい。

大東地区	3,400
五島地区	1,500
門司地区	7,400
瀬戸内地区	300
合計	25,000

上の地図は、沖縄防衛局が2013年3月、辺野古新基地のため埋立て許可申請に添付図書に海砂採取海域と記載されていた。しかし、変更申請にはない。

しかし、北上田氏も指摘するように、敷砂・砂杭などの工事材として「海砂」は欠かせない。変更申請ではあえて隠しているのか？それとも代替材をとでもいうのか？肝心な部分を多くあいまいにした変更申請、杜撰というべきか！国民を馬鹿にしているのか！

(編集部 松本)

沖縄県土砂条例の改正・強化を求め、陳情

辺野古土砂全協顧問 末田一秀

県外から搬入される埋立用材に付着混入する外来生物のリスクを下げることを目的とする土砂条例の改正強化を求めて、土砂全協では2018年12月議会以降、手を変え品を変え陳情を行ってきました。しかし、全会一致で採択という慣例のある沖縄県議会では毎回「継続審議」とされ、先の県議選に伴う議員の任期切れに伴い「審議未了」となってしまいました。

そこで新任の県議に問題を認識してもらう必要があることから、6月県議会に改めて「『特定外来生物』以外の『侵略的外来生物』を『沖縄県知事が指定する侵略的外来生物』として土砂条例の対象とし

ていただきたい。」との陳情を行いました。県が昨年度実施した調査でも、土砂搬出予定地で侵入・定着の情報があり、埋立用材への混入の可能性があり、特定外来生物でないことから土砂条例で規制されていない侵略的外来生物が動物42種、植物134種あるとされています。これらの種を放置すると土砂条例の実効性はあがりません。

県当局も「ご提案の内容については、生態系被害防止の観点から、科学的知見の現状、専門家の意見等を踏まえ、検討していきたい」と前向きな処理方針を示しましたが、まともや「継続審議」になってしまいました。

9月19日付、沖縄県議会9月定例議会に再度、下記の陳情を提出しました。

特定外来生物以外の侵略的外来生物持込みに関する 規制の導入を求める陳情



「生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム」(IPBES)は2019年5月に「生物多様性と生態系サービスに関する地球規模評価報告書」を公表し、「世界中に約800万種と推定される動植物について、約100万種が数十年内に絶滅の危機にある。」と警鐘を鳴らしています。同時に「人畜共通感染症は、人の健康の重大な脅威である。動物媒介の感染症は全感染症の約17%を占め、これによる死者数は全世界で毎年70万人にのぼると推計されている。開墾や生息地の分断、または多くの細菌性病原体に急速な抗生物質耐性の発現を引き起こす抗生物質の過剰投与といった人間活動によって、野生動物、家畜、植物や人の新たな感染症が増える可能性がある」としています。

IPBESを主導するジョセフ・セッツル共同議長らが本年4月27日に出した論文では、「気候変動や生物多様性危機と同様に、近年のパンデミックは人間活動、とりわけいかなるコストをかけても経済成長を評価する限定的なパラダイムに基づいた、世界の金融および経済システムの直接的な結果である。」とされています。自然を征服の対象と捉え、科学技術の発展を背景に無制限に開発を推し進めてきた現代文明こそが、生物多様性の損失を急激に進行させ、コロナ事態を引き起こしたのです。

このように考えると、日本で唯一の亜熱帯地域に属し固有の生態系を有する沖縄での生物多様性を守る取り組みは重要です。

私たちは先の議会にも陳情を提出し、継続審議とされています。生態系の被害防止の観点からは一刻の猶予も許されません。

以上のことから、次のとおり要請します。

外来生物法や沖縄県の条例の規制を受けていない、「特定外来生物」以外の「侵略的外来生物」の非意図的な県内持込みを防止する規制を条例に設けてください。

以上

沖縄糸満地区の岩ズリ採取に関する問題

いとまん島ぐるみ会議 島添 健造

辺野古新基地建設工事に関する『公有水面埋立変更承認申請書』によると全埋立土量は、20,176千 m^3 で、岩ズリは16,899千 m^3 採取する計画となっている。沖縄県内の岩ズリの調達可能量については、全体で44,763千 m^3 、その内糸満市と八重瀬町の南部地区から、31,596千 m^3 を調達可能としている。これは沖縄県全体の岩ズリ調達可能量の約71%となる。この量はおよそ、2km四方×高さ約8mの容積とえばそのとてつもない量により判るであろう。石灰岩採掘鉱山に隣接して既存の岩ズリの山はあるものの、その現存量は到底調達可能量に及ばない。また、岩ズリはあくまでも石灰岩採掘の副産物にしか過ぎず、実際に採掘される石灰岩の量はその数倍となるはずである。したがって、南部地区の大半の農地を引っ剥がして地下の石灰岩を採掘しない限り調達することはできないはずである。



石灰岩採掘地近くには岩ズリの山も多い（糸満市宇江城）

南部地区の琉球石灰岩地域について話しておきたい。この地は、実に歴史のタイムカプセルとも言うべきところである。八重瀬町港川の石切り場からは港川人と呼ばれる1万8千年前の人骨が発掘され、海や川に近い石灰岩地域には貝塚や古代人の住居跡が分布する。また、グスクと呼ばれる城塞または祭祀の場が石灰岩丘陵上に多く分布する。さらに、沖縄戦時には、石灰岩洞窟が住民の

避難壕や軍の陣地として利用された結果、米軍の熾烈な攻撃を受けて悲劇の場となり、戦後、多くの慰霊塔、慰霊碑が建立された経緯がある。



石灰岩地域には多くの湧水地がある（糸満市宇新垣）

1972年の本土復帰後は、糸満市、八重瀬町の南端部が沖縄戦跡国定公園区域となり、石灰岩丘陵は特別地域や特別保護地区に指定された。結果、これまでの石灰岩丘陵を崩しての石灰岩採掘ができなくなり、代わって農地などの地下から採掘するようになった。今では、各地に大きな採掘穴が出現している。岩ズリは採掘跡地を埋め戻す材料の一つでもあり、それが持ち出されると採掘後の巨大な穴をどう復元するかが大きな課題となる。本土復帰前の1971年、現八重瀬町の石灰岩採掘跡地が産業廃棄物の投棄地となり、そこに米軍由来のPCPが廃棄され上水道水源を汚染した重大な事件が起きている。

地下ダムを有する南部地区ならではの問題もある。かつて、この地域の農地は干ばつの害を受け易かった。その解消を図って、石灰岩層を貯留槽とする地下ダムができ、農地灌漑に利している。石灰岩層の消失は地下ダムの無効化にもつながる。このように南部地区における膨大な岩ズリの調達計画は、風致景観、水環境、居住環境などの面から大きな問題を含んでいるのである。

戦没者の血と骨眠る 激戦地の土

「戦没者の血を吸いこんだ土や石、戦没者の骨を、基地を造る埋め立てに使ってほしくない」。縦覧期間中の沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設に伴う設計変更申請書によると、沖縄本島南部からの埋め立て土砂の大量採取が予想され、沖縄戦の犠牲者の遺骨が混じる土砂が、同新基地建設に使用される恐れがあります。(小林司)

遺骨収集ボランティア代表 具志堅隆松さん



新基地 埋め立てに使うな



「戦没者の遺骨を、軍事基地を造るために海の埋め立てに使うことは許されぬ。犠牲者に対する冒瀆だ」。これまでの約40年間、遺骨の収集や遺族への返還に取り組んできた沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフライ」代表の具志堅隆松さん(66)が「那覇市」は強く憤ります。

太平洋戦争末期の沖縄戦から調達し、県内の採取場(3面)につづき、

「戦没者の遺骨を、軍事基地を造るために海の埋め立てに使うことは許されぬ。犠牲者に対する冒瀆だ」。これまでの約40年間、遺骨の収集や遺族への返還に取り組んできた沖縄戦遺骨収集ボランティア「ガマフライ」代表の具志堅隆松さん(66)が「那覇市」は強く憤ります。

辺野古新基地建設の従来計画では、埋め立て土砂の多くを県外から調達し、県内の採取場(3面)につづき、

所は本島北部のみならず(第32軍)は1945年5月、司令部が置かれていた首里城(現・那覇市)に決定している採取量を大きく軍が迫ると、司令部を放棄して本島南部に撤退を始めた。

現在の糸満市や八重瀬町などが南部一帯は地獄のような戦場と化し、多くの住民が巻き込まれ、犠牲者が激増しました。

辺野古新基地建設の従来計画では、埋め立て土砂の多くを県外から調達し、県内の採取場(3面)につづき、

部地区(糸満市、八重瀬町)で岩入りの調達可能量の約7割を占めています。

南部では現在も多くの遺骨が未発掘で、採石場などで土砂を採取すれば遺骨が含まれる可能性があり、埋め立てに使われることで失われる懸念があります。



昨年、遺骨が見つかった採石場では、掘削作業中に突然、縦穴が出現。中からは県外出身の兵士

戦没者の遺志踏みつけ

1面のつづき

「岩石を壊している現場で遺骨が見つかることは何度もある」と語る具志堅隆松さんは、南部2カ所の採石場で昨年と2015年にそれぞれ1体、遺骨を確認・収容しています。

昨年、遺骨が見つかった採石場では、掘削作業中に突然、縦穴が出現。中からは県外出身の兵士

沖縄激戦地の土砂 辺野古に使うな

と思われる遺骨が発見されました。縦穴は自然洞(ガマ)の一部で、ガマの入り口とみられる部分では、米軍の手りゅう弾の破片や、攻撃の跡が確認されました。

「骨が含まれていないか掘削を続けていたら、戦争に出撃するための基地の建設に使うこと自体



昨年、遺骨が発見された採石場内の縦穴。10日、沖縄県糸満市

2020.9.18 赤旗 1・3面 戦没者の血と骨眠る激戦地の土



石灰岩地域の地層断面を見せる地下ダム公園(糸満市字米須)



海岸段丘上の具志川城跡(糸満市字喜屋武)

辺野古埋立て設計変更申請に意見書提出

辺野古に土砂を送らせない！山口のこえ 代表 大谷正穂

「山口のこえ」のこの間のメインの取り組みは意見書提出です。

沖縄防衛局が4月21日、沖縄県に対し提出した辺野古埋立て設計変更許可申請について、9月8日～28日の期間、告示縦覧が行われました。「山口のこえ」として、下記のような玉城デニー知事あて不承認を求める意見書を出しました。

【利害関係の内容】

埋立用土砂の搬出予定（変更申請前）の自治体に居住しており、変更申請後も状況によっては搬出地に組み込まれる可能性があり言葉に言い表せない精神的苦痛が続く。また、この国の主権者、納税者の立場に加えて平和を求める市民として辺野古新基地建設が耐えられない。

【意見】

コロナウイルス感染から、私たちは平和で安心して暮らせる環境を保全することの大切さを学んでいます。

沖縄県知事は、今回の公有水面埋立変更承認申請を不承認にしてください。

【理由】

埋め立て土砂について述べます

①九州各地からの搬入にあたり、「特定外来生物」対策をどのように実行するかについての記述が全くありません。国家規模の事業を民間企業に丸投げする姿勢は無責任です。沖縄防衛局として考える対策を示すべきです。

②宮古島、石垣島、南大東島から島外への土砂持ち出しについて、植物検疫で問題になる害虫などをチェックする方策に触れていません。ひとたび従来の生態系を破壊すれば取り返しのつかないこととなります。

特定外来生物「オオキンケイギク」の調査

園芸種として国内に持ち込まれ、全国至る所、荒地や道端に繁殖するオオキンケイギク。

採石場周辺のオオキンケイギク調査も続いています。いつ搬出地にカムバックするか分かりませんし、保守地盤で育った田舎の活動家は、政府の言うことは信じていません。

イージスアショア配備計画撤回

安倍政権がトランプの兵器ビジネスに爆買いで応じ、新型戦闘機大量購入とともに、秋田県、山口県に配備を目論んできたのがイージスアショア（陸上イージス）配備計画。

「山口のこえ」は、会としては関わっていませんでしたが、一言書くならば「ブースターは演習場内に落ちます」と毎回、防衛省が住民説明会で言っていたことは完全なウソでした。田舎の人間は甘くみられたものです。「そんな技術はなかろう」と思っていた通りでした。教訓、「民意は無視できても技術は無視できない」。県知事は最後まで県民への説明会開催を拒み、県議会は議員への説明会すら反対多数で押し通しました。日本を支える保守地盤は田舎にはびこっています。6月、河野防衛大臣の、あまりにも唐突なイージスアショア配備断念の表明は、当然です。（2020.9.21）

辺野古・大浦湾の海を守るための意見書を一緒に書く会

ストリッパー 牧瀬 茜



8月半ば、道後のストリップ劇場に出演の折、阿部悦子さんのお宅に遊びに行きました。そのとき見せて頂いたのが土砂全協で準備している、宛先と書式が

印刷されたハガキや呼びかけのチラシです。まずタイトルの「辺野古埋め立て阻止のために、ハガキを出そう！」がわかりやすく、普段運動に関わっていない人にも取り組みやすいと感じました。

(私の知人友人には辺野古のことをよくは知らない人が多く、言葉が難しいとハードルが高くなると感じていました)。悦子さんに「これを真似して私も作っていいですか」と聞くと「送ってあげるわ。あちこちに送るからお安い御用よ」と、縦覧の期間が決まった9月のはじめ、早速送ってくださいました。私も自分なりの呼びかけの手紙を書いて同封して送ることにしました。

意見書の受付が始まる前日、ネットで「書きたいけれど、どうしたらいいだろうという方はご一報ください」と記事を書いたところ、友人だけでなく、各地のストリップ劇場でお会いするお客さんや思いもよらぬ方から送って欲しいと連絡がきました。仲間に配りたいと30枚50枚という注文も。お会いしたことのない方々からの問い合わせもきました。2日も経たないうちに送っていただいた分が旅立っていったので、私も土砂全協のものを真似てハガキを作り印刷屋さん注文しました。さて300枚刷ったので待ってるだけじゃいけない。悦子さんたちがあちこちに送っているように私も積極的に送ることにしました。と、それを受けとった東京山谷の映画喫茶「泪橋ホール」の店主、多田裕美子さんから「この意見書のことでイベントをしませんか」と声がかかったのです。

9月27日、「泪橋ホールで辺野古・大浦湾の海を守るための意見書を一緒に書く会」を開催し

ました。まずは「いのちの海辺野古・大浦湾」(謝名元慶福監督)を上映し、感想や、情報交換をしながら皆で意見書を書きました。



写真・「泪橋ホール」店主 多田裕美子さん

官邸前などで辺野古のスタンディングをしている方々が応援に来てくれたり、自分一人では書きだせなくて……と来てくださった方、10年前に引退したストリップの元同僚、辺野古のことを初めて知ったという方まで25名集ってくれました。「あそこの海は昔から特別だった」と名護育ちで東京に住む女性、「今までこのことを知らなかったことが恥ずかしい」と涙を流した若い女性、また、長くこのことに取り組んでいらっしゃる先輩方が話を聞かせてくれました。「もっと辺野古のことみんな知らなきゃいけないと思った。またやろうね」と店主の多田さん。

私自身、思いを文字にすることで、この問題がどんどん自分のことになっていくのを感じます。今回の意見書を書くことをきっかけに米軍基地のことや辺野古・大浦湾のことが「自分のこと」になった人がきつといたのではと思います。

工事が止まり、願わくば護岸も石も土砂も全部取り去られてサンゴがいのちを育み、ジュゴンが海草を食べに来てウミガメが産卵しアジサシが子育てできる……そんな辺野古大浦湾にかえる日を目指し活動していきたいです。

これが辺野古新基地建設変更申請 埋立土砂調達計画の概要だ！？

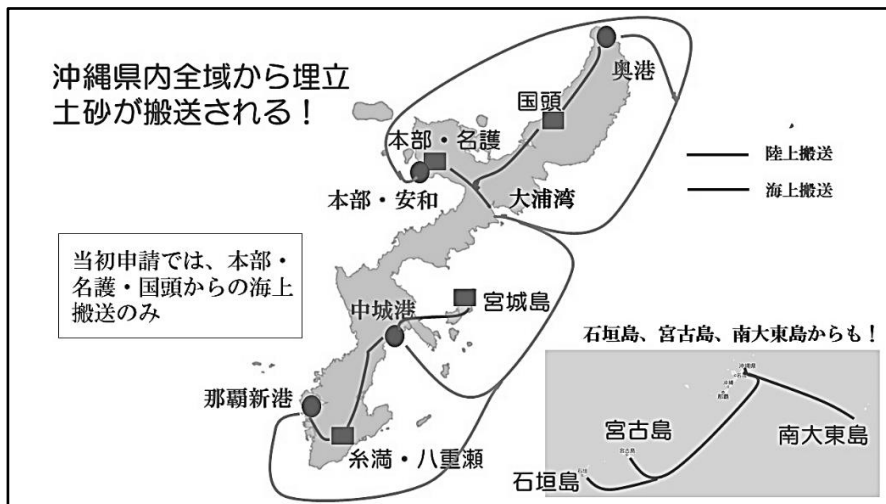
以下の表は、沖縄防衛局が4月21日、大浦湾の軟弱地盤改良工事の必要に迫られ、沖縄県に申請提出した添付図書-6に記載された埋立て用土砂の採取場所と採取量を集計したものです。

ただし、防衛局は「調達可能量」を示しているだけで、実際の土砂採取量は未定としています。

沖縄県内の埋立土砂調達計画の概要

(調達可能量：単位はm³)

当初計画			変更計画		
地区	採取場所	調達可能量	地区	採取場所・搬出港	調達可能量
本部地区	本部町・名護市 ＜海上搬送＞ 本部塩川港・安和栈橋	620万	北部地区	本部町・名護市 ＜海上搬送＞ 本部塩川港・安和栈橋 ＜陸上搬送＞	948.2万
国頭地区	国頭村 海上搬送	50万		国頭村 ＜海上搬送＞ 奥港 ＜陸上搬送＞	234万
			宮城島地区	うるま市 ＜海上搬送＞ 中城湾港	30万
			南部地区	糸満市・八重瀬町 ＜海上搬送＞ 中城湾港・那覇新港？	3,159.6万
			南大東島	＜海上搬送＞	6万
			宮古島	保良 ＜海上搬送＞	50.5万
			石垣島	＜海上搬送＞	48万
合計		670万			4,476.3万



沖縄県外からの埋立土砂搬入計画の概要

(■は専用栈橋等 調達可能量：単位はm³)

		当初計画		変更計画	
県	地区	採取場所	調達可能量	採取場所・搬出港	調達可能量
鹿児島県	徳之島	徳之島町→平土野港	10万	徳之島町→平土野港	570万
				天城町 →平土野港	
				徳之島町→亀徳港	
	奄美大島	龍郷町→名瀬港・■	530万	龍郷町(4ヶ所)→■	1,190万
		住用町(3ヶ所)→■(2ヶ所)		住用町(2ヶ所)→■(2ヶ所)	
		瀬戸内町→古仁屋港		瀬戸内町→古仁屋港	
				加計呂麻島→瀬相港	
	大隅地区	(佐多岬地区)錦江町→■	70万	錦江町→志布志港	407.5万
				肝付町(6ヶ所)→志布志港	
				鹿屋市(2ヶ所)→志布志港	
				曾於市→志布志港	
				志布志市(2ヶ所)→志布志港	
	始良・伊佐地区		0	湧水町→始良港	80万
				始良市→始良港	
	南薩地区		0	南さつま市(2ヶ所)→枕崎港	167.8万
				枕崎市→枕崎港	
	鹿児島島地区		0	鹿児島市(3ヶ所)→谷山港	1,900万
				南九州市→谷山港	
			0	日置市→谷山港	
				日置市→串木野港	
			串木野市→串木野港		
北薩地区		0	川内市→川内港	50万	
			出水市→出水米ノ津港		
熊本県	天草地区	御所浦町→■	300万	御所浦町→■	250万
	宇城地区		0	宇城市→三角付近の港	20万
長崎県	五島地区	五島市本窯町→■	150万	五島市本窯町→■	200万
				南松浦軍新上五島町→■	
佐賀県	伊万里地区		0	伊万里市→■	5万
福岡県	門司地区	北九州市(3ヶ所)→■	740万	2013年申請時の採取地、門司地区・瀬戸内地区は「0」に	0
山口県		周南市黒髪島→■			
		防府市向島→■			
香川県	瀬戸内地区	小豆島町→■	30万		0
合計			1,830万		4,840.3万
沖縄県内外合計			2,500万		9,316.6万

(注)埋立に必要な土砂(岩ズリ)の総量は1,690万m³

「西条の母の歌碑」修復記念祭に参加して

市民の広場 土居立子

6月23日、糸満市宇江城の山雨の塔で、崎山正美さん主催「西条の母の歌碑」修復記念祭が開かれた。愛媛から阿部悦子さんと2人で参加した。



4年前、横断歩道で車に撥ねられ重傷を負った阿部さんに代わり、私は沖縄を訪れた。崎山さんに、山雨の塔にある西条の母の歌碑に案内された。歌が刻まれた石板は割れ、字も薄くなっていたが、

**「沖縄の 南の果の岩蔭に 今は静かに眠るらん
戦に果てしその身の心中は 如何に無念と思ひこ
そすれ 合田輝明 行年二十九才 年老いて日
夜心にかゝりけむ 遠く離れし此の島に 再び歩
む親心 受取り給へ祈りまつらむ 愛媛県西条
市 母 合田あさ 七十八才 昭和四十年晩秋」**

と読めた。「勇ましい歌碑が多いが、この歌は残された者の悲しみを率直に歌っている。」と崎山さん。「おそらく合田輝明さんは第24師団所属で、母親は戦後20年経っても、戦死した息子のことを諦めきれず、パスポートを持って海を渡ってきたのだろう。」と語った。また「このままでは風化する一方なので、なんとか遺族に知らせることができないだろうか。」という言葉に、遺族にこの歌碑の存在を伝えることが、自分の役目だと思った。

それから私は知り合いの記者に聞いたり、県の援護恩給係に行ったり、愛媛新聞に「沖縄県慰霊の日に寄せて」という題で投稿した。2度目の投稿が、昨年6月23日に掲載された。

偶然、あささんのお孫さんがその記事を読まれ、すぐに新聞社に連絡をされてきた。

お孫さんから聞いた話は、『あささんは4人中3人の息子さんを戦争で失われた。輝明さんの遺骨は戻らず、死亡通知のみだった。それから20年後、あささんは一通のハガキを受け取る。輝明さんと同じ部隊で生き残った同郷の方からだった。大手術直後のあささんは、「痛いって言うてる場合やない。死んでもいいから行くんや!」と家族が止めるのを振り切って、沖縄に行かれた。(今と違い、パスポート取得は県庁でのみ。沖縄へは列車と船を何度も乗り継いで。)』というものだった。

数年前に沖縄を訪れたお孫さんは、平和の礎に行き、輝明さんの名前の前で手を合わせられた。「祖母からは『お墓を建ててきた』と聞いていましたが、その場所はわかりませんでした。仏壇に、土居さんが書いた記事を供えました。奇跡だと思いました。歌碑の事は知りませんでした。」と話された。

新聞掲載から数か月後、崎山さんの案内で、遺族が山雨の塔を訪れた。そして歌碑の修復を、石材屋さんに頼まれた。今、割れた石板は修復され、字も読みやすくなり、琉球石灰岩の台座の上に立派に立っている。

修復記念祭は、遺族の意向もあり少人数で行なわれた。歌碑の修復を祝い、輝明さんの鎮魂を祈り、沖縄戦で我が子を失った母の苦しみ悲しみに思いを馳せた。

そこに参加することができ、崎山さんに感謝している。この歌碑をきっかけに愛媛の人が、沖縄と深く繋がっていることを認識し、愛媛と沖縄の人々の交流の懸け橋となることを願う。

沖縄からの便り
《連載 No.12》
いちやりば
ちよーでー

あまた命(ぬち)抱ちよる
やふあら海ぬ底
搔ちやーすな政府(くに)よ 島ぬ宝
へり基地いらない二見以北十区の会 浦島悦子

《 「あまた命(ぬち)抱ちよる やふあら海ぬ底 搔ちやーすな政府(くに)よ 島ぬ宝」 》



これは、今年4月19日の『沖縄タイムス』琉歌欄に「秀作」として掲載された私の歌である。沖縄防衛局が改良工事のための設計概要変更申請を沖縄県に提出した大浦湾の「軟弱地盤」について、そこがあたかも生き物のいないへドロであるかのように、土木工学的な側面からしか語られないことに、私はずっと大きな違和感を抱いてきた。そこが無数の命の宝庫であり、この島にとっても地球にとっても、かけがえない宝であることを、そして、そこを搔き回し、固めようとは天に唾する大罪であることを、何とか伝えたいがうまく伝えきれない…。

《 「ふわっと優しく大地を包み込む積もり立ての新雪のような土——かな？」と、東北に住む友人の地質学者は言った。私が「大浦湾の『軟弱地盤』と言われるところの海底の土質をどう表現したらいいと思う？」と尋ねたことへの返事だ。サンゴ礁由来の石灰質で「N値ゼロ」の土というのは他にないだろうとのこと。

また沖縄のある研究者によると、大浦湾の入り口にあたるそこは、沖縄島が中国大陸と陸続きだった頃の名残をとどめる大切な場所で、その地史を物語る原初的な生きものたちが息づいているという。「積もり立ての新雪」というのは、雪の降らない沖縄では想像しにくい、母の懷に安らかに眠るみどりごのように、柔らかい土にくるまれて無数の繊細な命が眠っている様を想像した。

海や山で日々殺されていく命、殺されようとしている命たちの悲鳴は、そのまま、ますます苛烈になる災害やウイルス禍に苦しむ私たち人類の悲鳴でも

そんなもどかしさの中で投稿したこの歌を、選者の勝連繁雄氏は秀作に選び、その「評」に「上句は具体的ではないが、海のもつ本質性、あまたの命に関わる大切さ、とりわけ人類の生命に不可欠な豊穡性をイメージさせるものがある。下句は具体的になる。当然、辺野古の海などが浮かぶだろう。そこを汚すな、消滅させるな、奪い取るなというメッセージも。」と書いて下さった。

そこで、次にはもっと「具体的」に伝えようと『琉球新報』に投稿したのが次の文である(6月27日「ティータイム」欄掲載)。県内だけでなく全国の多くの人たちに伝えたいという私の強い願いに免じて、全文を紹介することをお許し願いたい。

大浦湾は調査が進むにつれ、地球上でも屈指の生物多様性の宝庫だということがわかってきた。調査のたびに新種が次々と発見される海は珍しく、「奇跡の海」とも言われる。「軟弱地盤」の場所は未調査のため、そこに棲む生きものたちも未確認だ。辺野古新基地建設のために立ち入り禁止区域とされている今は不可能だが、調査すれば新種がたくさん見つかるだろう。

その命あふれる場所に地盤改良工事と称して、巨大な作業船から7万本以上もの砂杭が打ちこまれることを想像するだけで、息が詰まりそうになる。しかもそこは、この島の成り立ちを解明するためにも失ってはならない場所だ。何としても基地建設を止め、この宝の海を未来の子どもたちに残していきたい。 >

ある。自然界を搾取し続け、戦争や軍備に明け暮れてきた現代文明を方向転換するしか、それを救う道はない。

10, 14 学習集会 止めよう新基地建設！辺野古裁判勝利！

とき 10月14日(水) 18:30~20:30

ところ 日本教育会館一ツ橋ホール(千代田区一ツ橋2-6-2)

講演 加藤 裕 さん(弁護士・辺野古関連訴訟弁護団)

安部真理子さん(理学博士・日本自然保護協会自然保護部主任)

参加費：800円

参加者はマスクの着用をお願いします。体調のすぐれない方はご遠慮下さい。

参加者数は300名に制限させていただきます。

主催：「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会

後援：戦争をさせない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

連絡先：一坪反戦地主会関東 090-3910-4140 沖縄意見広告運動 03-6382-6537



お詫び

つながる力17号3頁「ご紹介します」のコーナーで紹介したJR大阪駅前で「辺野古新基地NO！」のキャンペーンを続けている団体は、正しくは「**辺野古に基地を絶対つくらせない！大阪行動**」です。関係者の皆様にはご迷惑をおかけしたことお詫びいたします。コロナ感染拡大で4月初旬、一時休止を余儀なくされていましたが、毎週土曜日15:30より街頭宣伝を再開しています。

「STOP！辺野古新基地建設大阪アクション」は、「大阪行動」も参加する、辺野古新基地建設に反対し活動する市民団体の連合体です。

編集後記

新型コロナウイルスの市中感染が収束を見ないなか、思い描いた活動もままならず、この間、巣籠もり状態の事務局です。しかし、オンラインの総会開催・その議案書作成のためのリモート会議、時期を同じくして、9月8日から始まった辺野古新基地建設設計変更告示縦覧に際して意見書提出呼びかけ運動を進めてきました。各地からハガキの追加送付の要請があり、反響の大きさを感じています。(松本)

辺野古土砂全協 HP

<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>
「STOP！HENOKO 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」で検索して下さい。あなたのパソコンの「お気に入り」にぜひご登録下さい。

2020年度会費のお願い

2020年度団体・個人会費のお納めをお願いします。カンパ熱烈大歓迎！

— 郵便振替口座 —

番号 01750-8-144158

名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

《辺野古土砂搬出反対全国協議会ニュース 18号》 2020年10月10日

発行責任者…全国連絡協議会共同代表 阿部悦子(環瀬戸内海会議) hibi_etsuko@yahoo.co.jp

大谷正穂(山口のこえ) masaho1954@gmail.com

編集…松本 宣崇(環瀬戸内海会議) nmatchan@ms8.megaegg.ne.jp

…八記久美子(辺野古土砂搬出反対北九州連絡会) kanpanerura8k@mail.goo.ne.jp

HPアドレス…<http://stophenoko.html.xdomain.jp/>

事務局…〒700-0973 岡山市北区下中野318-114 松本方 TEL・fax 086-243-2927

連絡先…〒794-0026 愛媛県今治市別宮町9-7-4 阿部悦子 TEL 090-3783-8332

振込先…郵便振替 番号 01750-8-144158 名義 辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会